

浄天樂流尺八奏者 井上真愛久の進化する音

命・肉体への試練に伏した10年の月日に、あるがままを受け入れ、曙光を見つめ、あきらめる事無く、輝きを失わずに総ての瞬間を全力で生きて参りました。11月27日、そして1月6日のライブで井上真愛久（マーク）が、皆様の前に復帰致します。

長い闘病中も内なる湧水からふき出す音を、真愛久は書き続けました。
和洋の東西を越え、ジャンルを問わず奏で続けてきたマークの音は、幼少から鍛えられた音楽背景を持って、古典から21世紀に響き渡る〈ヒューマニクサウンド〉へと進化し、2010年より、日本発、世界へ発信するため始動します。

仏・菩薩のためだけに奏でることが許された尺八とは。 1300年前の音色、悠久の魂を現代に蘇らせるために。

真愛久の音を聞いてくださった一人一人総ての方が、胸に小さな灯りを希望として灯して下さることがなによりも喜びです。

日本の自然は四季を通して国を美しく彩ります。
山の初雪、桜吹雪、目に眩しい青葉、万象を照らす真夏の陽射し、極彩色に彩られる紅葉・・・
そしてこれらの背景には静謐でたおやかな風に揺られる笹葉を茂らせた竹林が在ります。日本という国が誇る大自然と悠久の歴史です。

尺八は、この竹から生まれ、神秘にして穏やか、且つ根強いエネルギーを持つ楽器で、日本では1300年前に中国大陸から伝わり伝承されている懐の深い楽器です。

聖徳太子も愛玩したという記録も残り、正倉院には翡翠、象牙からつくられた尺八が大切に納められています。

奈良 平城遷都1300年への思い

来年は、奈良で平城遷都1300年祭が開催されます。

1300年前の音色、その美しい精神の伝承のために。そして尺八の本来の用いられ方を現代に蘇らせるために。
50周年を迎える年に、この音色をまずは美しい日本の国に、そして多くの人々の心に響かせたいと考えています。

～参考 生命力・・・そして音の力

- 1999年 末期癌に侵されるも奇跡的に回復。
手術前の夜に眉間にオレンジ色の光の珠が入った経験を持つ。
- 2004年 左脳前頭葉脳出血。危篤状態が続く中、7人の医師全員に「音楽活動復帰絶望的」「日常生活機能レベル低下」と宣告される。
ICUで自身の音楽を聴かせ、入院中もドラムスティックに触れさせる。
夏の嵐の夜、病院の玄関に出て夫婦で強い雨、風、木々の揺さぶられる音を全身で受け止めた夜もあった。
結果、右半身麻痺は消滅。重度の高次脳機能障害もステージに立つたびに脳が目覚めていくようにゆっくりと回復。同じ高次脳機能障害を持ちつつ、チャレンジ精神、努力を極める藤沢在住のアスリート北京パラリンピック・自転車競技の金・銀・銅メダリスト 石井雅史さんと深い交流があり、レース前には真愛久の音楽を身体に取り込む。
高次脳機能障害からの回復パターンに共通点が多い。
- 2004年から2009年
同時に、原因不明の身体の激痛に苦しむ。肋骨、脚、背骨など30箇所の骨折を繰り返す。
それでも尺八を鳴らす真愛久。尺八を奏でると痛みが止まるようだと静かに吹き続けた。
声を枯らしてその原因をつきとめるべく妻は奔走。寝たきりの状態まで陥った頃、一筋の光が射し込めた。
結果、臨床研究中的のもので、日本で7番目の症例と判明。
東大病院で手術を行い完治を迎え、2009年11月、2010年1月とステージにたつ。

11月27日はR&Bライブですが、マークの声、その表現力をぜひゆっくりご覧いただけたら幸いです。

1月6日は、来年のテーマである浄天樂流の尺八の音色、そしてドラムを演奏する予定です。

2010年には50周年のアルバムを自主制作予定です。

井上真愛久:1947年10月12日 神奈川県横浜出身 葉山在住

◆別添資料

1. プロフィール
2. 40周年記念CD「祈り」 45周年記念CD「夢千里」
3. 2009年11月27日Part1 & 2010年1月6日Part2ライブ ちらし
4. 上記 ご招待券 2枚・・・追加のご希望がございましたらご用意いたします。

◆井上真愛久に関するお問い合わせ

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色624
universalworks+ (ユニバーサルワークスプラス)
info@universalworksplus.com

Phone&Fax : 046-875-8332 Cell : 090-6650-0744 (井上結葉)